

編集後記

*第21号をお届けします。今回は全四篇と、本数は必ずしも多くはないが、いずれも貴重な資料に関する論考である。投稿者に感謝申したい。と同時にこのような機会をいただいた学部のメンバー全員に感謝申し上げたい。

*一文学分野であっても研究を長い間重ねていくことは、思いのほか容易いではないことかもしれない。研究ジャンルにも流行廃れがあるからであるが、誰がなんと言おうと一途にそうした研鑽を積むことで逆に光明を見出せることもある。大学院の恩師が例えば一人の作家を十年研究すれば何とかかなると言ったが、その研究にその年数の二倍、三倍あるいはそれ以上かけたとしても多作の作家なら奥義をきわめるのは並大抵の苦勞ではない。

*本誌は、毎回申し上げるが、経営学部のメンバー全員に門戸が開放されているため、大いに入会されたい。